

■一般目標（GIO）

高齡者の健康維持・増進の支援を行うために高齡者の身体的・精神的特徴および老人性疾患を理解し，口腔健康管理からの生活支援を実践するために必要な知識・技術・態度を身につける。

■到達目標（SBOs）

- ・高齡者を取り巻く社会環境について述べられる。
- ・高齡者の口腔保健に関する現状を検証できる。
- ・訪問歯科における歯科衛生士の役割が述べられる。
- ・人工呼吸器関連肺炎（VAP）について説明できる。
- ・周術期口腔管理における歯科衛生士の役割について述べられる。
- ・多職種連携を図るためにディスカッションに参加できる。
- ・グループ内での役割を把握し，グループメンバーに配慮できる。

■教科書：最新歯科衛生士教本 高齡者歯科 第2版（医歯薬出版）

■参考書：歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版（医歯薬出版）

歯科衛生士講座 高齡者歯科学 第3版（医歯薬出版）

■授業時間：水曜日 14：00～16：50（1）

■オフィスアワー：中澤 広美（nakazawa.hiromi@nihon-u.ac.jp）月曜日～金曜日 9：00～17：00

■授業の方法：講義：教科書とレジュメ，プロジェクターを利用

実習：患者想定をして行う。そのためには患者の身体状態等各自事前学習を行う。

グループワークやグループディスカッション：積極的な意見が述べられるように，各自準備学習を行う。

■準備学習・予習は事前に教科書を読み込み、復習は教科書とレジュメを準備学習時間：合わせ，理解を深めること。

患者および家族の気持ち等も配慮できるように，ホスピタリティマインドについて考えてから実習に臨むこと。

■成績評価方法：定期試験 80%，実習に臨む姿勢（課題含）20%を総合評価

■注意事項：実習を欠席した場合は補習対象になる。補習を欠席した場合の補習は原則認めない。

■実務経験：田中孝佳：当院口腔外科での臨床経験等の話も交えながら、本教科で学ぶ内容の理論や手技と基礎医学がいかに関連しているのか学ぶ場を提供したいと考えている。（口腔外科Ⅰ）

中澤 広美：大学病院，総合病院，高齡者福祉施設、児童福祉施設での勤務経験を基に，社会のニーズを取り入れた学べる場を提供したいと考えている。

■ 予定表

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第1・2・3回 (1) 10月1日 中澤 広美	高齢者の生活機能評価と口腔健康管理Ⅰ・Ⅱ	・ IPE について説明ができる。 ・ 高齢者の口腔健康管理についてプレゼンテーションの準備ができる。
第4・5・6回 (1) 10月8日 中澤 広美	IPE (多職連携教育)	・ 口腔健康管理について多職種学生と症例検討ができる。 ・ 歯科衛生士業務が説明できる。 ・ 多職種学生とグループワークできる。 ・ 多職種学生と討論できる。
第7・8・9回 (1) 10月15日 中澤 広美	訪問歯科診療	・ 在宅医療について説明できる。 ・ 訪問歯科診療の仕組みについて説明できる。 ・ 訪問先でのマナーについて予測できる。 ・ 訪問先でのマナーについてディスカッションができる。 ・ 訪問先でのマナーについて述べられる。
第10・11・12回 (1) 10月22日 中澤 広美	高齢者の全身状態の見方および口腔内 の見方 歯科衛生士による 口腔健康管理の 実際Ⅰ	・ バイタルサインの基準値が列挙できる。 ・ バイタルサインの測定方法が説明できる。 ・ 筋肉量や脱水量の測定方法を説明できる。 ・ 会話や顔の表情からの状態を評価方法が説明できる。 ・ 口腔内の状態の評価および評価方法が説明できる。 ・ 口腔内状態を評価するための器材を述べられる。
第13・14・15回 (1) 第16・17・18回 (1) 10月29日 11月12日 中澤 広美	高齢者の全身状態の見方および口腔内 の見方 歯科衛生士による 口腔健康管理の 実際Ⅱ 半数:実習 半数:課題	・ 対象者を想定し、必要な器材が準備できる。 ・ 訪問先を想定し、適切な対応が実施できる。 ・ 対象者の安全の確保ができる。 ・ 全身状態を評価できる。 ・ 口腔内状態を評価できる。

授業日・担当者	講 義 項 目	学 修 目 的・到 達 目 標
第 19・20 回 (1) 12 月 3 日 田中 孝佳	周術期の口腔管理における歯科衛生士の役割Ⅰ, Ⅱ	・ EBMに基づく口腔機能管理に必要な顎口腔領域の基礎知識について学ぶ。 ・ 口腔細菌の特徴について学ぶ。
第 21・22 回 (1) 12 月 10 日 田中 孝佳	周術期の口腔管理における歯科衛生士の役割Ⅲ, Ⅳ	・ 周術期口腔管理を必要とする疾患や誤嚥性肺炎について学ぶ。 ・ 人工呼吸器における肺炎 (VAP) 予防について学ぶ。
第 23 回 12 月 17 日 (2 限) 田中 孝佳	周術期の口腔管理における歯科衛生士の役割Ⅴ	・ 頭頸部領域の放射線および化学療法の影響について学ぶ。 ・ 周術期の口腔管理の実際と歯科衛生士の役割について学ぶ。
第 24・25・26 回 (1) 第 27・28 回 (1) 1 月 14 日 1 月 21 日 中澤 広美	①周術期における口腔健康管理 (実習) ②周術期における IPW チームアプローチ (課題)	・ 対象患者の疾患を理解し, 口腔内状態を想定できる。 ・ 対象患者に適した口腔衛生管理ができる。 ・ 対象者に適した口腔機能管理ができる。 ・ 周術期における IPE について討論できる。 ・ チーム医療を想定し, 口腔健康管理の指導ポイントについてグループディスカッションできる。